



公益財団法人 School Aid Japan バングラデシュ通信



2013年7月号 No.7

教員研修「研究授業」

6月、教員研修として研究授業を行いました。ある授業を数名で参観し、十数個の評価項目に従って分析・フィードバックをするというものです。

担当教員は教科指導理念、年間指導計画や単元指導計画を綿密に作成し、授業に臨みました。教授法や考え方、生徒の特徴を踏まえた対応の仕方等、時にはフィードバックから発展しオブザーバーとの議論が一時間に及ぶほど、濃い意見交換が出来ました。

日本ではおなじみの研究授業の手法が、バングラデシュでは少ないと聞きます。Narayankul Dream Model High School(NDMHS)で一つのモデルを創り、他校と協働できればと考えております。



教員研修 校長先生(左写真一番奥)も交じって他の先生の授業を聞きます

夢ダイアリー

「夢へ向かい、努力を継続する道のりの中で、人として成長すること。」

これは NDMHS が考える幸せの定義です。

夢を持つ生徒のためのツール、「夢ダイアリー」を、生徒たちに配布しました。

「夢が叶ったらどんな状態だろう?」「叶えるためには近い将来どうなる必要があるだろう?」

「その近い将来のために今日やらなければならないことは何だろう?」

NDMHS では担任の先生と生徒が一緒になって、目標へのステップを明確にします。

そして日々の HR で行動できているかをチェックし、フィードバックをしながら、目的達成のために努力を継続してゆきます。その過程で経験するすべての事が、生徒自身の学びになり、生徒をより大きくすると私たちは考えます。



夢ダイアリーが配布されました



担任の先生が生徒に寄り添います

学習塾

Bangladeshでも、多くの生徒が学習塾に通います。都心部でも農村部でも学習塾は存在するのですが、農村部には特有の課題が存在します。

1つ目は、人員不足です。幼稚園から小学校5年生までの子ども大勢を1人の教員が担当し、またその教科もまちまちです。そのため一人の生徒にかけられる時間が極端に少ないのです。

2つ目は、経済事情です。農村部の生徒の保護者の平均月収は1万Tk(1万3千円)程です。これは、家族が一月生活するためのギリギリの収入です。

ところが、学習塾に通わせるためには1人500Tk~1000Tk 必要です。ノートや鉛筆を十分に購入できないことや、学習塾自体の収入も少ないことから、学習法が限られてくるのです。教科書をひたすら音読し、暗記する。写真のこの塾でも、そういった方法が取られていました。

教育内容の充実とともに、雇用環境の質の向上が、効果的な学習環境の構築条件と言えます。



先生一人で大勢の子どもを教えることや経済事情の問題など、多くの問題がある農村部の学習塾